

研究評価委員会
「太陽光発電システム効率向上・維持管理技術開発プロジェクト」(中間評価)分科会
議事録

日 時：平成28年10月14日(金) 9:30~17:40

場 所：WTC コンファレンスセンター RoomA

出席者(敬称略、順不同)

<分科会委員>

分科会長 高倉 秀行 立命館大学 理工学部 特別任用教授
分科会長代理 加藤 丈佳 名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授
委員 有吉 善則 大和ハウス工業株式会社 技術本部 総合技術研究所 執行役員/所長
委員 加藤 宏 一般財団法人 電気安全環境研究所 横浜事業所 計測器管理グループ グループ
マネージャー
委員 鈴木 義人 株式会社ユーラスエナジーホールディングス 道北技術部 副部長
委員 田中 良 株式会社NTTファシリティーズ 経営企画部 政策渉外室 担当部長

<推進部署>

松本 真太郎 NEDO 新エネルギー部 部長
山田 宏之(PM) NEDO 新エネルギー部 主任研究員
西村 隆雄 NEDO 新エネルギー部 主査
武田 厚 NEDO 新エネルギー部 主査

<評価事務局等>

吉田 卓生 NEDO 技術戦略研究センター 職員
徳岡 麻比古 NEDO 評価部 部長
保坂 尚子 NEDO 評価部 統括主幹
内田 裕 NEDO 評価部 主査

議事次第

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
2. 分科会の設置について
3. 分科会の公開について
4. 評価の実施方法
5. プロジェクトの概要説明
 - 5.1 事業の位置づけ・必要性、研究開発マネジメント
 - 5.2 研究開発成果、成果の実用化・事業化に向けた取り組み及び見通し
 - 5.3 質疑応答

(非公開セッション)

6. プロジェクトの詳細説明
 - <研究開発項目①「太陽光発電システム効率向上技術の開発」>
 - 6.1 次世代長寿命・高効率パワーコンディショナの開発
 - 6.2 次世代長寿命・高効率ACモジュールの開発
 - 6.3 低価格角度可変式架台の開発による積雪時の発電効率向上
 - 6.4 太陽光反射布を用いたソーラーシェアリング発電所システム効率向上の研究
 - 6.5 高耐久軽量低コスト架台開発と最適基礎構造適用研究
 - <研究開発項目②「太陽光発電システム維持管理技術の開発」>
 - 6.6 新規不具合検出機能を備えた発電量／設備健全性モニタリングシステムの開発
 - 6.7 HEMSを用いたPV発電電力量の遠隔児童診断と故障部位把握方法の開発
7. 全体を通しての質疑

(公開セッション)

8. まとめ・講評
9. 今後の予定
10. 閉会

議事内容

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
 - ・開会宣言 (評価事務局)
 - ・配布資料確認 (事務局)
2. 分科会の設置について
 - ・研究評価委員会分科会の設置について、資料1に基づき事務局より説明。
 - ・出席者の紹介 (評価事務局、推進部署)
3. 分科会の公開について
 - 評価事務局より資料2及び3に基づき説明し、議題6.「プロジェクトの詳細説明」及び議題7.「全体を

通しての質疑」を非公開とした。

4. 評価の実施方法について

評価の手順を評価事務局より資料4-1～4-5に基づき説明した。

5. プロジェクトの概要説明

5.1 事業の位置づけ・必要性、研究開発マネジメント

推進部署より資料6-1（項目1,2）に基づき説明が行われた。

5.2 研究開発成果、成果の実用化・事業化に向けた取り組み及び見通し

推進部署より資料6-1（項目3,4）に基づき説明が行われた。

推進部署より資料6-1に基づき行われた説明に対して、以下の質疑応答が行われた。

【高倉分科会長】 ありがとうございます。技術の詳細につきましては議題6で扱いますので、ここでは主に事業の位置付け・必要性、マネジメントについて議論いたしたいと思います。ただいまの説明に對しまして、ご意見、質問等がございましたらよろしくお願ひいたします。

【田中委員】 システムは非常に幅広いですが、全体を通してですが、先ほど、山田さんの方から、過積載との兼ね合いの話がありましたが、これは重要な問題であることと、この過積載で設置されているのは、どちらかというとな替の変動に大きく影響を受けて、パネルのコストが非常に安くなってきているということです。そのあたりとの兼ね合いをどうするのかということと、それから、国民負担の増大を削減すること、システム価格を下げていくのは当然重要なことですが、この開発全体を見たときに、長寿命化、パワーコンディショナの寿命30年というテーマがありました。これは、家庭用のシステムに対する30年化という形なのでしょう。ところが、後に出てくるテーマで、例えば、奥地建産がやる、どちらかというとな替という形のものについては、大規模ソーラーを対象とした開発かと思いますが、ちょっと整合性がとれていないのではないかと。寿命30年というのは、家庭用をやると、それが全部のシステムに波及効果が生まれるのかどうかということと、ちょっと明確になっていないのではないかと。

それから、最終的に、海外展開という形が飛び過ぎている。これは是非ともやる必要があると思うが、そのときに、BOSやシステムに対して、海外がどういう状況になっているのか。特にこれから日本が売っていくというのは、ヨーロッパよりも、東南アジアとか、そういう地域だと思いますが、そういうところのメンテナンスとか、O&Mがどうなっているのかというのは、資源総合さんかどこかは別として、やはり調査する必要があるのではないかと思います。

【山田PM】 ありがとうございます。最初のご質問、過積載の件ですが、過積載ということ、ちょっとネガティブな呼称になりますが、個人的には、システム設計の最適化ではないかと思ひます。

【田中委員】 オフセット。

【山田PM】 黒川先生はオフセットとおっしゃっています。

モジュールの価格が非常に下がってきた。これは為替の影響と、価格競争の結果、いろいろな要因があると思ひますが、モジュールの価格が下がってきたということと、事業性の追求ということで、そのようなシステム設計が行われていた。これは私どももそのように認識しております。その結果、設備利用率を上げるということに成功してきたというのが、これまでのトレンドではないかと理解しています。

一方で、安くなった分、パネルを増やすということに取り組んだ結果、設備利用率は上がったが、システムの価格としてはそれほど下がらなかった。調達価格等算定委員会では採用しているシステムの価格の推移を下がったと見るかどうかということですが、一時上がったような数値も出ています。そうしますと、これを下げるためには、設備利用率を下げるのか、価格を下げるのか。どちらも難しいこ

とでございまして、ここに技術開発のブレークスルーを求めるべきではないかと、そういう、動機の設定としては、そこにつながっているということをお答えしたいと思います。

2つ目、住宅用の話についてご説明します。2014年の運転維持費、住宅用は我々の見積もりですが、お手元の資料にはありませんが、kWhで3.42円程度です。これを下げて2020年の14円/kWh未満の発電コストを目指すということ。実は、太陽光発電開発戦略では住宅用で14円/kWhという目標は掲げてはいませんが、同じように、発電コストを下げるというトレンドを追求すれば、2円/kWh前半を目指す必要があると考えています。今、14円/kWhは達成していないが、14.59円/kWh、非住宅と同じような条件を適用していくと、14円台半ば/kWhで、運転維持費が2.5円/kWhぐらいになるという見積もりを出しています。やはりこちらも3割ぐらい下げないといけないというトレンドでは、同じかと思えます。

目標としては、非住宅を念頭に設定しておりますが、一方で、住宅のメンテナンスコストを下げるということに有効であるという意味では、ご紹介したパワーコンディショナの長寿命化というのは活かされてくるのではないかと我々は評価しております。

【西村主査】 あと、後半のほうでご質問いただいた海外展開というところがありましたが、我々が調査で得られた情報といたしましては、確かに日本のモジュールメーカーも苦戦している状況ですが、それ以外のBOSのところでも、海外展開というところは、メーカーさんに聞きましても、やはりかなり厳しいということは聞いております。パワーコンディショナにつきましても、海外調査では、コスト的にもヨーロッパとかで出回っているもののほうが安いということで、価格でいうとなかなか競争は難しいと。先ほど、田中委員がおっしゃっていただいたように、東南アジアとか、そっちのほうが多分ターゲットになるのではないかと見ています。

ただ、その場合、製品だけでなく、サービス、保守・メンテナンスというところもないと海外展開というところには浸透していかないというのもわかっておりまして、その辺は課題としてある訳ですが、まず開発の中で、信頼性の高い、特に長寿命というものにつきましても、やはり日本の製品は信頼性が高いということで選ばれるようになれば、そこが切り口で海外にも入っていけるのではないかと考えています。

また、海外のパワーコンディショナの情報を聞きますと、日本は沢山のメーカーがありますが、欧州などでは、ご存じのように、SMAさんですとか、ABBさんとか、本当の大手のところはかなりシェアを占めているという状況もございまして、日本のメーカーについては、シェアという意味では、大規模にはなっていないので、そういったところで、価格競争では厳しい状況にあるというふう

に理解しております。

【高倉分科会長】 よろしいですか。そのほか、ご意見いかがでしょうか。

【加藤分科会長代理】 質問というわけではないかもしれませんが、この事業で当初募集するときの課題設定というのが、現状のコストに対してのパーセント削減という目標があったと思いますが。一方で、2020年の14円/kWhとか7円/kWhとかという、そういう具体的な数字があって、そこに対して今どこまで達成しているのかという観点で、NEDOはどんなふうに評価されているのかでしょうか。

【西村主査】 当事業が始まったのは平成26年ですが、この開発期間中も、当然、年度が経つごとに市場の価格が下がっていくというのはありますが、NEDOでは技術開発がメインですので、ここでは、それぞれのテーマの中でどれだけ下げられるのか。つまり、この開発が終わったら、従来の技術から幾ら下がるか。そういう意味では、10%発電効率を上げます、BOSコストを10%下げます、こういったところでは、発電コストといたしましては、感度分析等から、2円/kWhの低減効果になると、

【加藤分科会長代理】 多分、個別の問題というよりは、プロジェクト全体の評価として、これを今やった

ことによって、7円/kWh、14円/kWhに対して、どれくらいの位置に来ているのかということ
をどんなふうに応答するか、見せ方の問題かもしれませんが、どんなふうにお考えですか。

【西村主査】 今、テーマといたしまして、住宅の機器のところは、2円/kWhと、維持管理のところでは
1円/kWhの削減効果が見込めるので、14円/kWhの目標に対して、近づいてきているのでは
ないかと。 大規模につきましては、BOS架台の削減というところで下げ幅としては同じぐらい
ですが、あくまでもこのプロジェクトは2020年に14円/kWhをターゲットにしていますの
で、住宅用と同じように、発電コスト低減効果が見込めると考えています。

【山田PM】 少し私のほうから補足します。ご質問は、実際に14円/kWhになるのかどうかというご
質問だと思いますがこのプロジェクトの1つのポイントとして、最後に実証することを掲げております。
前半で開発を進めまして、この技術を使えばこれぐらい下がるという、相対的な評価、あるいは、机上
の計算、要素技術の評価というのは、ほぼ見通しが得られているわけですが、最後にそれが実際
本当にどのぐらい下がるのかというところは、実証を行うことで定量的に示すこと。それをもって、
14円/kWhに資する技術なのかどうかというのを世に説明してまいりたいと考えております。

【高倉分科会長】 よろしいでしょうか。そのほかのご意見いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、私のほうから少し。細かいことですが、2つほど質問させていただきたいのですが。

スライド23の資料の、パワーコンディショナの開発のところ、※印で、目標は別途設定と書い
てありますが、この説明がなかったのですが、これは、どこかに出てくるのでしょうか。

【西村主査】 設定しています。公開セッションでは金額は伏せておりますが、非公開セッションのほうで
説明する予定でおります。

【高倉分科会長】 なるほど。わかりました。

あともう1点は、またこれも細かいことですが、スライド30の資料で、BOSコスト全体で20%
削減という、この言葉の意味がよくわからないのですが。要するに、架台のところのコストが、全体に占
める割合が13.2%という山田さんの説明（スライド10の資料）がありましたが、20%削減にも
なったら、架台はただになってしまうというふうにも読めるのですが、このBOSコスト全体で20%
削減という意味を教えてください。

【西村主査】 このBOSコスト全体というのは、工事費も含めております。モジュール代は除きます。で
すから、パワーコンディショナとか、架台、工事、周辺機器など、そういったものをBOSという言い
方をしております。今回、奥地建産の開発については、架台がメインになります、工事費も下げると
いうことで、NEDOの目標としては10%削減ですが、このテーマでは20%削減を目指しており
ます。BOSコストの比率についてですが、これは住宅用とメガで違って、スライド10の資料はメガ
用になります、システム価格全体の約3分の2がBOSコストで占めるので、その全体を10%、
NEDOとしては下げていくという設定です。

【高倉分科会長】 そうですね。その10%というのと、このBOSコスト全体で20%削減が架台だけで
できますよと言われると、ちょっと違うのではないかという気がしたものですから。これは表現の問
題かもしれませんけれど。

【山田主任研究員】 ここにあります架台費用だけですと、おっしゃるように、13.2%です。ただ、そ
のほか施工費でありますとか、造成費でありますとか、ほかのコストの削減効果も期待してという
ことでございます。

【高倉分科会長】 そうすると、全体で20%弱。それは非常にありがたい。

【山田PM】 それを目指したいということ。

【高倉分科会長】 わかりました。そのほか、いかがでしょうか。どうぞ。

【加藤分科会長代理】 先ほど、価格だけではなかなか将来勝負は難しいという話もありましたが、それで、

高品質化というか、長寿命化とか、そういうところで勝負していくといったときに、それは、直近のマーケットに対して、なかなかアピールするのが難しいポイントではないかと思いますが、海外の調査などもやっておられるわけで、どんなふうにこの成果をそこに反映するか。その調査なども含めて、プロジェクト全体として、開発の部分をアピールしていくというところに対して、どのような見通しが得られているか。

【山田PM】 第一の目標は、国内での発電コストを下げるということです。波及効果として、海外でも勝てる技術を開発していくということです。海外に持っていくところの競争力は、どうしても設備・機器の部分が主になるのではないかと考えております。パワーコンディショナでありますとか、安いけれど強い架台でありますとか、そういったところについては、きちんとコストを下げて海外に持っていくということを狙ってまいりたいと考えています。

どうしても工事全体とか、そういったところは海外と比較するというのが直接的には難しいので、発電コストでありますとか、ロケーションに影響を受けるようなコストの部分での説明は難しいですけども、機器でありますとか設備の部分は、海外でも競争力を持てるようなものを開発していきたいと思います。ここで例を挙げれば、パワーコンディショナ、ACモジュール、ケミトックスの架台などは、海外でも使えるような訴え方をしていきたいと思ったり、維持管理技術についても、海外でも通用する技術が出てくるのではないかと考えております。

【高倉分科会長】 よろしいでしょうか。あと1件ほどお受けする時間があると思いますが。

【田中委員】 この最後の研究テーマのところの、「分散型PCSメガソーラーへの遠隔診断制御クラウドと対処手順の開発」についてですが中止としたNEDOさんの判断で、最後の下のところで、国内で小型PCSを分散設置した云々という形と、大型PCSを集中配置した場合、これは、BOSという観点から見ても、実は非常に重要な要素を持っていると思っていまして、従来は、例えば、1,000Vの場合だったら、500kWのPCSに対して直流集中して大型PCSでやってきた。ところが、最近は、どちらかという、ストリングスとは言わないですが、アレイごとに小さなパワーコンディショナを付けて、そこですぐ交流に変えてしまって、交流分散で、トランスで昇圧をかけていくという方式が出てくる。そのシステムが、かなりの量で最近入り出している。そうすると、信頼性と保守・メンテナンスにしても、BOSという観点からしても、全く形態が変わってしまうような状況が起きてくるわけです。PVTECさんが、もしこういうものを含めて開発をやってくれれば、多分、これはいい継続になったのかなという気がするのですが、少しもったいないという気はしていますが、この辺はどうなのでしょう。

【山田PM】 ご指摘のとおりかと思えます。実際、ここをアピールしてシェアを伸ばしている会社さんもございますし、我々も、このテーマについては、実は期待はしていました。

評価については、この課題、問題意識自体を否定したわけではなくて、このテーマ及び実施者さんの取り組みとして、日本国内での維持管理費低減ということをしかりご説明いただくに至らなかったということです。課題認識自体は引き続き重要だと思っておりますし、動向調査などを使ってしかりフォローアップしていきたいと思っております。

【田中委員】 そうですね。ほかにも何かないのかなという気がして。

【山田PM】 是非、そういういい取り組みは、今後ともご指導いただきたいと思っておりますけれども、テーマとしては、継続するという判断は適切であったと自己評価した次第でございます。

繰り返しになりますが、先ほどの過積載の話もそうですが、どういうシステムが適当なのかということについては、今後とも追求してまいりたいと考えております。

(非公開セッション)

6. プロジェクトの詳細説明

<研究開発項目①「太陽光発電システム効率向上技術の開発」>

6.1 次世代長寿命・高効率パワーコンディショナの開発

省略

6.2 次世代長寿命・高効率ACモジュールの開発

省略

6.3 低価格角度可変式架台の開発による積雪時の発電効率向上

省略

6.4 太陽光反射布を用いたソーラーシェアリング発電所システム効率向上の研究

省略

6.5 高耐久軽量低コスト架台開発と最適基礎構造適用研究

省略

<研究開発項目②「太陽光発電システム維持管理技術の開発」>

6.6 新規不具合検出機能を備えた発電量／設備健全性モニタリングシステムの開発

省略

6.7 HEMSを用いたPV発電電力量の遠隔児童診断と故障部位把握方法の開発

省略

7. 全体を通しての質疑

省略

(公開セッション)

8. まとめ・講評

【田中委員】 結構いろいろ多岐にわたった維持管理技術に対する開発等も行われているわけですが、FITが始まって、平成33年でFITは終了するという形になるわけで、そのときに、今ここで開発しているのが5年云々という、30年。そうすると、もうそこから実際にそれを適用していくには、結構時間がタイトな状況の中に入ってくるわけです。その中で、こういう維持管理と新しい太陽電池等の開発も含めて一緒にやって、どこまで国際競争力を出せるものなのかどうかというのが非常に重要になってくるのかなと思っています。

今回のものは、私どもも海外をいろいろ調べておりますが、海外ではほとんど——海外と言っても、東南アジア近辺ですけども、O&Mというのはほとんどやっていないというのが現実で、これはいい技術さえ整えれば、十分に国際競争力の持てるものではないかと思いましたが、この辺、時間がないのもあるかもわかりませんが、是非とも頑張ってください。

それと、3年で終了となっているテーマもありますが、もう少し時間をかけてやったほうがいいのかないかなというような開発項目もありますので、その辺は、場合によってはNEDOさんと相談するなり何なりされたほうがいいのかと思っております。

以上です。

【鈴木委員】 私ではなかなか理解できないぐらい、レベルの高い研究内容も含まれていまして、それぞれの研究テーマは、当初に設定した目標はほぼ達成されているようで、また、達成されていないような個別の目標に対しても、さすがに具体的に研究に入っているということで、最終的な効率向上ですとか、そういった大きな目標へ達するために、また別の新たに目標を設定し直すとか、そういったこともき

ちんと考慮されていて、順調に研究は進捗しているのかなという印象を受けました。

また、効率向上・維持管理技術開発プロジェクト全体に対して申し上げますと、やはり今、田中さんからもお話がありましたとおり、国内だけを見据えていると、何となく市場自体も、F I Tの問題もあって小さいというのもあるので、常に相手を考えながら展開をしていって、国内のメーカーなり、いろいろな事業者というのが外向きにきちんと収益を上げるように、日本の競争力を高めるほうにつながっていかればよいなと思います。

個別に関しては、想像以上にきちんとされているなという印象を受けました。

以上です。

【加藤委員】 今回の感想として最初にいいたいのは、太陽電池の研究というと、少し前まではやはりセルの効率向上というものが中心だったかなと考えますが、その中を見ると、今回、大きく分けて5つのテーマに分かれてきたということは、非常にうれしいことだと思います。

また、その中で、日本がやってくれることとして、例えば、信頼性向上、発電コストの低減などというのは、とにかく日本が先に出てやれるテーマと考えておりますので、今後も引き続きやっていただければよいと思っています。

ただ、その中で、目標がかなりチャレンジングな数値が出ていますので、その辺の数字達成度というものに今後注目したいと思います。

以上でございます。

【有吉委員】 私は、住宅メーカーでございますが、太陽光発電につきましては、大和ハウスの住宅の6割ぐらいに太陽光発電が搭載されています。それと、うちの中の事業で、環境エネルギー事業というのがございまして、ここでもメガソーラーの建設並びに一部運営ということをやっておりますが、これらの実績が今あるのは、やはり固定価格買取制度、タリフの施行というのが非常に大きな効果を発揮したというふうに感じています。

今も、メガについては、そのときのストックがまだ残って、工事が残っておるといふのと、住宅については、もう一つ、Z E Hを推進していくという条件の中に、これはもう太陽光が乗っていないと話にならないので、そういったことが今、後押しをしてくれているというところがあるかと思いません。

何が言いたいかという、まだやはりひとり歩きできるコストにまではなっていないと、住宅においては思います。そういう意味で、今日のテーマであるシステムの効率向上、先ほど来話がありましたように、モジュールの変換効率等々の向上から、もっと手を広げてという話もありましたけれども、システム効率向上、それから、特に維持管理というところに大きな目標値を掲げてチャレンジしてもらっているということに対しては、これからの太陽光をもっとひとり歩きさせていくという意味においては、大きな原動力になろうかと思いません。

ただ、評価の中では、もっと理解しやすい評価軸でもって評価を、内容はいいですけど、木も見るけれどしっかり森も見ていこうねというような評価の尺度があれば、より理解しやすかったかなと思います。

以上でございます。

【加藤分科会長代理】 今の有吉先生と同じような言葉になるかもしれませんが、システムという観点で様々な提案があったということは、逆に言うと、コスト削減なり、導入の拡大のあり方というのは様々であろうかなと思います。

そういった中で、それを実際実現していくために、いろいろな方法論があることをいかに理解していただくか、アピールしていくかということこそをきちんと押さえていくということで、今回の成果が生きてくるのではないかなというのが感想です。

特に信頼性とか長寿命化というところが、先ほども少し言いましたが、最初の設備を入れるというところできちんと理解していかないと、なかなかそのコストにはかなわないというところが出てきてしまいますので、せっかくいい面をきちんと理解していただくというフォローアップというのが大事ななという印象を持ちました。

【高倉分科会長】 ありがとうございます。最後に私ですが、個別に少し感じましたところをお話しさせていただきます。

パワーコンディショナの高効率化・長寿命化ということで、いろいろ多方面にわたって取り組まれて、非常にいい成果が出ているのではないかなと評価します。是非とも、この知見がもう少し大きなパワーコンディショナのところに上手くつながっていけばいいなと感じましたのと、もう一つ、やはりパワーコンディショナの寿命のテストですね。どういうテストをやるのかということの標準化に対しては、PVTECさんが多分コントロールされるのだと思いますが、是非ともよろしくお願ひしたいと思います。

それから、ACモジュールの開発のところでは、私の不理解で間違っているかもしれませんが、まだコストの面で少し課題があるのかなと感じまして、もっともっと安いものができたらいいなと感じましたので、是非とも、今後とも、あと2年ぐらいですか、頑張っていたきたいと思います。

それから、維持管理のところでは、2社、京セラさんとネクストエナジー・アンド・リソースさんの発表がありました。いろいろ研究成果が出ている様なので、是非ともビジネスにつなげていただきたい。研究して終わりました、では、これでさようならではちょっと困りますので、是非とも実用化、ビジネスのほうにつないでいただきたいと感じたところでございます。

全体としまして、目標に対してはほぼクリア、あるいは、事業の最終年度までにはちゃんとクリアできそうだということの表明がございましたので、非常に心強く感じたところでございます。

以上の評価委員からの意見ですが、この点につきまして、推進側として何かありますか。それとも、まとめとして、推進部署のほうからお話しただけののでしょうか。

【山田PM】 本日は、朝からこの時間まで丸一日かけてご評価、ご審議いただきまして、誠にありがとうございました。いただいたコメントの中でも、特に評価軸がクリアではないというお話でありますとか、海外にも目を向けたというような全体的なご指摘については、我々も次のマネジメントに向けてしっかり取り組んでいきたいと思ひます。

また、個々進捗について、応援といいますか、ご評価いただいた点については、さらにそれを伸ばせるような形をとってまいりたいと思ひます。

我々としても、ご指摘ありました動向調査の活かし方でありまして、太陽光発電設備のシステム全体としてのあり方、そういったところまで視野を広げて、先ほどのようなマネジメントをしっかりと強化してまいりたいと思ひます。そのときには、我々だけでは力至らぬところがございまして、何らかの機会を設けて、また先生方にもご指導いただけるようなお願ひをしたいと思ひます。その際には、是非ともご指導いただければと思ひます。

推進側からは以上です。どうもありがとうございます。

【高倉分科会長】 ありがとうございます。以上で、議題8を終了いたしたいと思ひます。

9. 今後の予定、その他

10. 閉会

配布資料

資料 1	研究評価委員会分科会の設置について
資料 2	研究評価委員会分科会の公開について
資料 3	研究評価委員会分科会における秘密情報の守秘と非公開資料の取り扱いについて
資料 4-1	NEDOにおける研究評価について
資料 4-2	評価項目・評価基準
資料 4-3	評点法の実施について
資料 4-4	評価コメント及び評点票
資料 4-5	評価報告書の構成について
資料 5	事業原簿（公開）
資料 6-1	プロジェクトの概要説明資料（公開）
資料 6-2	プロジェクトの詳細説明資料（非公開）
資料 7	今後の予定
参考資料 1	NEDO技術委員・技術委員会等規程
参考資料 2	技術評価実施規程

以上